

令和5年度 第5回梅坪台地域会議 会議録

■ 日時 令和5年8月8日(火) 午後7時～午後8時

■ 場所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

<委員>	大谷 忠司	白井 満	杉浦 隆
	鈴木 重久	長江 秀昭	松川 幸江
	三岡 英隆	森田 實	諸岡 裕一
	山村 史子	山本 孝宏	依田 武人

<交流館> 杉山 浩子 (梅坪台交流館 館長)

<事務局> 松下 誠 (地域支援課 副課長) 塚田 征弘 (地域支援課 担当長)

谷口 明日菜 (地域支援課 主事)

加納 良宣 (高齢福祉課 課長) 清水 健司 (高齢福祉課 担当長)

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 答申 ～高齢者の社会参加の促進について～
- 4 連絡事項

■ 議事内容 (要約)

3 答申 ～高齢者の社会参加の促進について～

令和4年度末に諮問のあった「高齢者の社会参加の促進」について、梅坪台地域会議から高齢

福祉課に答申を行った。また、答申後に今回の諮問内容を協議する中で感じたことなどについて意見交換を行った。

<意見>

○自分の中の問題意識として、高額な医療費負担が挙げられる。3か月に1回通院するよう言われるが、自分に医療に関する正しい知識がないため、本当に通院しなければならない程度なのか分からない。このような問題も、「医療」という観点から考えていかなければならない。

○協議の場では、いつも「高齢者をどうにかしなければならない」という内容が議題になるが、若い人たちからも行動を起こしていく必要があると思う。地域の運動会やお祭りなど、若い人と接点を持てるような機会を作ってはいるが、グループで集まってしまい、会話など触れ合うことはほとんどできていない。「高齢者の社会参加の促進」という議題について、「高齢者」単体で考えるのではなく、若い人と高齢者のギャップを埋めるという観点からも考えていく必要があると思う。

○介護予防や幸福感向上のための高齢者の社会参加促進を検討してきたが、そもそも介護は高齢者同士で解決できるものではない。昔、家庭内介護ができていたのは、介護す

る側とされる側の間が20歳くらい離れていたからである。社会全体で介護しなくてはならなくなった今は、高齢者単体で考えるのではなく、若い人も巻き込んで考えなければならない。

- 「社会参加」と「健康づくり」を結びつける人はほとんどいない。「和気あいあいと、友人など気心が知れた人と取り組む」ことが健康づくりにとって大切である。
- リーフレット作成の取組を挙げたが、作成するだけで満足するのではなく、その先どのように活用するかが大切である。対象となる高齢者にピンポイントで送るなどできればよいのではないか。(例えば、健康診断結果の通知と一緒に送る、など)
- 答申書にも記載したとおり、若いころから自治区活動・地域活動に参加することで、定年後も地域に溶け込みやすくなると思う。まずは市役所の職員から参加するなど、意識を高めていけると良いのではないか。
- 梅坪台地域に移り住んでしばらく経つが、市外に勤めていると、住んでいる地域とのつながりが薄いと感じる。また、現役世代としては、地域の活動に参加したいと思うが、なかなか情報が入ってこない状況がある。今回は高齢者がテーマだが、若い世代も参加させて、お互いが支え合うことが重要だと思う。
- 今回の諮問に関する協議を通じて、高齢者の興味・関心がどこにあるかを考えてみたが、今までタブー視されていた「終活」が挙げられるのではないかと思う。
- 今回、答申を行ったが、その内容が今後どのように生かされるかが気になる。ずるずると対応するのではなく、スピード感を持って対応してほしい。
- 社会参加の促進とは言うものの、やはり知らない人も多い地域の活動への参加に対し、ストレスを感じる方もいると思う。無理やり参加させるのではなく、自分が好きなことを自分のペースで進めるのが良いと思う。
- 高齢者の方は、昔の話をすることが好きな傾向があると感じる。昔の話を話せる機会を設け、そこに参加してもらうことが健康維持につながると思う。
- まだ若いのに「自分は年だから」と色々ためらう方もいる一方で、年齢的に高齢者ではあるが、自身を高齢者と思わずに積極的に活動される方もいる。元気で健康なまことにするためには、「自分を高齢者と思わず、活発的に動ける人を増やす」ことが大切だと思う。

■ 今後の予定

令和5年度第6回梅坪台地域会議

9月12日(火) 午後7時～梅坪台交流館 多目的ホールにて